

「地籍データ利活用についての将来性の展望」

和歌山県海南市役所 まちづくり部 地籍調査課 炭 典樹

市民課受付のバーチャル化です。

住民票の取得など各種申請を、DVD を借りるようにバーチャルで行おうというものです。家に居ながらにして住民票、印鑑証明書が取得できれば大変便利です。

土木工事設計図書の保管庫機能も有効であると提言しました。

地図上に保管庫を作り、その位置に関する図書を保管しておいて必要な時に取り出す仕組みです。

現在、書類の保管庫はどこも一杯で何が何処にあるのか全く分かりません。暑い倉庫の中で汗まみれで書類を探すのは大変なことなので有効なシステムになるのではないかと考えています。

さらに、地図と住民情報を組み合わせ業務に生かそうとの目論みもあります。

地図上をヒットして個人情報にリンクすれば行政事務で非常に機能します。

兎も角このように地籍情報を生かす方法について時間を忘れて夢中になっています。

古くから、斜めに並んだ町並の謎が解けなかったのですが、地籍調査の結果江戸時代初期に埋め立てが行われ、その際入江の構造が原因で街区が斜めになったことを数年越しで実証しました。圧巻でした。

行政における GIS はビジネスチャンスの多い分野だと思います。

しかし、基礎データが整備されていないのでグーグルの写真データに押されっぱなしです。

海南市での地籍の位置データはこの後 10 年で整備されるでしょう。

私は後数年で現役を去りますが、データ整備と並行して有効な活用方法を残しておかなければと、日々考えています。